

令和6年度 学校推薦型選抜 経済経営学部経済経営学科 小論文
出題の意図と解答の傾向

第1問

設問1

【出題の意図】

論旨を的確に要約して状況を説明する能力を確認するための問題である。

著者は、PTA会長として業務を遂行する中で、新型コロナウイルス感染症を契機として、慣習的に続いているが不要もしくは見直す必要のある「不要不急なもの」を複数挙げ、その理由を説明している。具体例として、課題文の中では、「出欠確認書」と「学校便」が挙げられている。また、これらが不要不急であることの根拠として、メーリングリストやアンケート作成アプリ等の電子的な手段を用いることで、より目的が効率的に達成可能であることを示している。

採点時は、上記の2つの具体例のいずれかを不要不急なもの事例として提示できているか、かつ、それが不要不急であることの根拠について、課題文の記述を参照しつつ適宜要約を行いながら論述できているかを中心に評価した。

【解答の傾向】

「出欠確認書」や「学校便」といった具体例が挙げられていない解答が見られた。あるいは、これらが具体的に何を指すのかという定義や詳細に関する記述が不足している事例が見られた。また、「学校便が不要不急であると発見した」のように、著者が制度そのものが不要不急であると論じているかのように捉えられるような記述が見られた。

さらに、不要不急の理由を説明する記述に関して、別の手段が存在すること、そのような手段を用いることでより目的が効率的に達成可能であることまで言及できている解答は限られていた。

設問2

【出題の意図】

文部科学省が高等学校教育において育成を期待する能力のうち、大学入試の記述式問題で評価することが期待されている「自らの考えを論理的・創造的に形成する思考・判断の能力」「思考・判断した過程や結果を的確に、更には効果的に表現する能力」を問う問題である。具体的には、本学経済経営学科のアドミッションポリシーをふまえて、地域社会や学校教育や家庭生活に関する知識や関心の強さを確認するとともに、本文の内容を踏まえてそれらの知識を活用し、自身の見解を文章で的確に表現することができているかを確認するための設問とした。

採点時は、3つの観点を意識して評価を行った。

第一に、課題文の趣旨をふまえて、自身の周囲にある不要不急な行事や慣習や制度につ

いて、課題文で挙げられている以外の具体例を示し、それがどのような点で不要不急であると判断できるのかを明確に説明できているか。

第二に、自身が示した不要不急な行事や慣習や制度が、目的を達成できなくなったために廃止したり、同じ目的を達成するために他のものに代替したりすることが可能であることを説明できているか。

第三に、自身が示した不要不急な行事や慣習や制度が、新型コロナウイルス感染症をきっかけとして発見された経緯や背景を説明できているか。

高い評価を得た解答例として、学校で対面かつ大人数で行われる集会などの行事を不要不急なものとして論じた解答があった。自身の学校で行われているこれらの行事の具体を説明した上で、従来の形式でこのような行事を続けることには多くのデメリット（移動時間のロスや体調不良者の発生等）があること、コロナ禍を契機としてオンライン会議システム等を活用した方法に変わった経験からその恩恵を享受したこと等を説明し、それらをふまえて行事の見直しを主張した解答が、高評価につながっていた。

【解答の傾向】

「企業におけるテレワークの推進」など、問われている自身の周囲で起こったことではなく、一般的な社会の出来事を事例に挙げている解答が見られた。

また、「旅行の自粛」など、コロナ禍での一時的な制限であり、コロナ後には復活するであろう持続性のない行事や慣習や制度を挙げるなどして、課題文において著者が論じる「不要不急なもの」の趣旨をふまえない解答が見られた。

さらに、他の代替可能な手段を示さずに「学校の授業が不要不急」「店舗での買い物が不要不急」と論じるなど、廃止することで社会的経済的に多くの不利益が生じることを考慮せずに自らの意見を主張する解答が多く見られた。

第2問

設問1

【出題の意図】

図から情報を正しく読み取れているか、を確認するための問題である。複数の視点（軸）から読み取る、グラフの中身に着目して読み取る、他国との比較から読み取る、ことを求めた。

単純にエネルギー消費量の多寡だけではなく、GDPを踏まえているか（エネルギー効率）、化石エネルギーへの依存度の高さだけではなく、その内訳（石油依存度の高さ）まで言及できているか、が重要である。

【解答の傾向】

エネルギー消費量の多寡のみ、化石エネルギーへの依存度が高いことのみを言及するも

が多かった。また、図の数値をそのまま取り上げて記述しているだけのものもみられた。ポイントとなる数値を把握する必要があるが、ここでは、それらを踏まえて簡潔にまとめることが重要である。

設問 2

【出題の意図】

論理的に考えることができるか、自分の考えをわかりやすく表現できるか、社会問題への関心、などを確認するための問題である。

データと自身の考えの整合性がとれているか、世界経済や環境技術など様々な角度から論理的に自分の考えを記述できているか、取り組みにはコストやリスクも伴うことなど掘り下げて説明できているか、を求めた。

【解答の傾向】

全体的に「SDGs」や「カーボンニュートラル」などといった言葉は記述されており、環境問題などの社会問題への関心の高さはうかがえた。しかしながら、もう少し具体的に掘り下げて考えてみるのが重要である。

図 3、図 5 から「化石エネルギー依存からの脱却が課題であるため、再生エネルギーの増大を図る。」といった回答が多かった。しかしながら、発電コストなど、その課題について言及するものは少なかった。

また、電気自動車の普及推進について言及するものも多かったが、電気自動車の電力はどのように発電するか、化石エネルギー以外を用いた発電で賄えるか、などについて言及するものは少なかった。

一方で、多くはなかったが、様々な角度から、掘り下げて言及しているものもあった。例えば、国や地域によりエネルギー効率や化石エネルギーへの依存度、エネルギー消費量の推移などに差があることを踏まえ（図 1、図 2、図 3、図 4）、環境技術の支援について述べ、その促進のためには法制度の整備が必要であるなど社会科学的な取り組みも重要であることを言及する回答もみられた。